

## ミッレシモ (Millesimo)

ミッレシモは、サヴォーナの北、ピエモンテ州方面にバスで約1時間行ったところにあります。要するに、リグーリア州のピエモンテ州寄り山の中、ボルミダ溪谷 (Val Bormida) にある人口3300人の小さな村です。ピエモンテに近いだけに、ここもトリフの産地で、「National City of truffles」に選ばれています。毎年、9月の最後の週にこの村でトリフのお祭り "Festival Nazionale del Tartufo" が2日間開かれるそうです。また、トリフ以外のローカル・フードも有名なようです。皆さん既にご存知の「最も美しい村」と「小さな街・村」の両方からも推薦されています。

ボルミダ溪谷はローマ時代から開発されていたそうですが、ミッレシモの村は12世紀に Marquis Del Carretto によって創建されたと記録が残っています。その頃はリグーリアとピエモンテの交通の要所として栄え、今も残る歴史的な建物はその時代の前後からのものとなっています。

サヴォーナからバスに乗り、この村には11時半に到着しました。村の中心広場では日曜日の朝市が並んでいました。今の時期トリフはありませんが、ローカルフード、洋服やきれいな春の花の店が並んでいました。その街頭市を横目で見ながら、まず、この街で一番古いサンタ・マリア・エクストラ・ムロス教会を訪ねました。この教会は998年にその名を残していますが、その後忘れ去られ荒れ果てていました。1960年に修復されてサンタ・マリア・エクストラ・ムロス教会となり、現在に至っています。教会の中には入れませんでしたが、川のほとりの公園の中にあるロマネスク建築の教会は、春の日差しを受けた田舎の雰囲気の中で、都会で蝕まれた心が洗われるような気持ちになります。



教会から街の中心とは反対方向に5分くらい歩きますと、サン・ステファノ修道院 (Monastery of Santo Savigliano) があります。この修道院も12世紀初頭にロマネスク建築で建てられていますが、16世紀にバロック様式に建て替えられてしまいました。修道院改革で放置された後、19-20世紀に、一部をゴシックルネッサンス調に建て替えられて貴族の宮殿として使用されていたようです。現在も、この修道院の一部しか使われていないようで、使われていない建物の大部分は廃墟となっています。そこに業者が入って修復を施しています。それが幸いして、普段では入れないだろうと思われる修道院の中の古い回廊部分まで、工事車両の通路を通って入ることが出来ました。回廊と中庭は荒れ果てたままになっていましたが、それが尚更、長い歴史を感じさせてくれます。土曜日で修復工事を行っていませんでしたので、誰もいない荒れ果てた回廊を自由に歩き回れました。回廊の壁には、いつ描かれたものかわからない薄く消えそうなフレスコ画や子羊の彫り物、昔の馬車の車輪等が中世そのままの姿で残っていました。



修道院をたつぷりと見て回ってから、村の中心部に戻りました。コミュニーレ宮殿の前は公園のある広場になっていて中心に噴水があります。コミュニーレ宮殿は、もともと12世紀に建てられたCarretto家の宮殿でしたが19世紀に村に譲渡したそうです。ここで、ナポレオンがローマ教皇からぼろぼろになった軍旗を受け取ったとの由来があります。この広場にはサン・ロコという名の六角形の礼拝堂もありました。



コミュニーレ宮殿の裏は旧市街の細い石畳の小道となっています。その小道を少し歩くとポンテ・ヴェッキオに出ます。この橋はリグーリアとピエモンテを結ぶ街道にあった橋です。イタリアでも珍しい要塞化した橋で、その真ん中には城塞の塔が建っています。この珍しい古い橋がこの村のシンボル

となっています。橋は、半分しか残っていませんので、川の向こう岸までの残り半分はつり橋が架かっています。つり橋を渡ると結構揺れますので、ちょっと怖く不安になりましたが、何とか渡りきり、向こう岸の川岸を歩きながら何枚もこの橋の写真を撮りました。この古い橋は本当に絵になります。特に、半分しかないことが一層際立たせているように感じました。



川沿いに5分ほど歩きますと、今度は、完全なつり橋がありました。つり橋の先の向こう岸には、大きなお城が見えます。また、怖い思いをしながらつり橋を向こう岸まで渡り、今度はお城の見学です。このお城はリグーリアとピエモンテを結ぶ街道の防御の為に12世紀半ばにCarretto家によって建てられています。石で出来た城塔はその時代のものだそうです。この村はナポレオンとの関連が強いのか、このお城はナポレオン博物館となっています。特に興味はなかったのですが、博物館には入らずお城の周りを回ると、ラッキーなことに裏口が開いていました。裏口からお城の中庭に出られ、中庭からお城の内側まで見る事が出来ました。もちろん、無料です。



この小さな村には、観光客はほとんどいません。きっと、トリフのお祭りの時には多くの観光客が訪れる事と思います。街頭市が立ち並んでいたコミュニーレ宮殿の傍の村の中心にある広場は、そんな事を予感させてくれるところでした。周りにはそれほど大きくないがきれいな色をした建物が並び、ポルチコのアーケードで囲まれています。また、他に観光客のいない村の散策は、本当に長閑です。特に天気は良く暖かで、川沿いを歩きながら、周りの溪谷のきれいな景色を眺めると気分は最高です。



サヴォーナまでは、ロゴレドから直通的 IC (17.5 ユーロ) と普通列車 (10.6 ユーロ) が出ています。IC だと 2 時間 15 分、普通列車だと 2 時間半の距離です。今回は、7 時 12 分ロゴレド発の IC に乗り、サヴォーナに着いたのは 9 時半前です。サヴォーナは新築の空港のターミナルのようなきれいな駅です。そののシェフ・エクスプレスで、パニーノとカプチーノで遅い朝食を取り、駅からミッレシモ行きのバス乗り場のあるポポロ広場に向かいました。広場まで 7.8 分歩き、カフェでバス・チケット (片道 2.6 ユーロ、但し、停留所にはミッレシモまで 2.5 ユーロとかいてありました) を購入してバスに乗ったところ、そのバスはサヴォーナの駅経由でした。要するに、駅前の停留所からもこのバスに乗れたのです。まあ、これくらいの間違いはよくあることです。

このバスは、山の中を通りますので素晴らしい景色を堪能できます。春の花が咲く山の景色だけでなく、途中にはお城が見えたり、山道にかかった城壁をくぐり抜けたりもします。1 時間の道のりも長く感じません。

サヴォーナからミッレシモまで直通バスもあるようですが、私の乗ったバスは途中のカルカレという名の街でバスを乗り継いで終点のミッレシモまで行きました。サヴォーナでバスに乗るときに運転手から説明を受けたのですが、何を言っているのか全くわからず笑ってごまかしていました。それが、カルカレで運転手さんに隣のバスに乗り換えるように指示されてやっと何を言っていたのかを理解したわけです。ミッレシモまで乗った観光客らしき人 (カメラを持ってリュックを背負っていました) は、私のほかに 1 人だけいました。その他は地元の人たちだけです。